第１回島田市都市計画マスタープラン等
アドバイザー会議／まちづくり市民会議　合同会議
議　事　概　要

１　日　時　平成 30 年 7 月 3 日（火）19：00～21：00

２　場　所　島田市役所会議棟大会議室

３　出席者

アドバイザー会議　：海道委員、寒竹委員、岩田委員、角入委員、玉置委員、内山委員

まちづくり市民会議：權田委員、荒井委員、戸塚委員、佐久間委員、木村委員、鶴川委員、新間委員、太田委員、北川（有）委員、田代委員、鈴木委員、堀崎委員、北川（未）委員、安達委員、杉浦委員

市長、副市長、都市基盤部長

事務局（都市政策課長、都市政策課職員５名）

４　委嘱状交付

市長から、各委員へ委嘱状が交付された。

５　会長・副会長選出

委員の互選により、アドバイザー会議の会長に海道委員、副会長に寒竹委員が選出された。また、まちづくり市民会議の会長に佐久間委員、副会長に新間委員が選出された。

６　議事

事務局から、資料に基づいて、都市計画マスタープランの策定の目的、スケジュール及び体制等について説明がされた。次に、まちづくりへの思いについて、出席委員に発表いただいた。

主な意見は以下のとおり。

【まちづくり市民会議委員】

・人口減少等の様々な問題が挙げられているが、市民の幸福度がどこかで実感できないと、次の世代にバトンタッチできないのではないかと思う。
・市民の幸福度は今までは、モノだったり、公共施設だったりと目に見える形であった。これからは計画する側の視点に立った都市計画ではなく、島田に住んでいる人たちがどういったまちを使えるかという視点が重要であり、そこで得られるものが市民の幸福度に繋がるのではないかと思う。
・これからの島田市のまちづくりとしては、「街道文化を生かした大井川を中心としたまちづくり」と「高速交通体系と自然を生かしたまちづくり」で進めていければよいと思う。
・大井川が有名なことは知っていたが、川に水がないことに驚きを持ったことを覚えている。
・大井川の存在感を活かしたまちづくりができればいいと思う。

・居心地のよい場所（空間）をつくったらよいまちになるのではと思う。
・この 8 年間で商業の数が約 25%、製造業に関しては約 8%程度減少しており、元気がなくなっていると感じる。
・島田市の生産人口は、あと 12 年後には、約 1 万人減少すると推測され、非常に危機感を抱いている。
・島田市には、大茶園や大井川などの豊かな自然、観光産業、充実した交通インフラがあるため、それらを上手に活かして、後世に伝わる島田市をつくっていきたいと思う。
・まちもひとも高齢化になってきているが、昔から変わらない関係がずっと続いており、元気に過ごしている人が多いと感じている。
・まちのつくりも変わってきているが、普段の仕事の中で生活だけでなく交通の便も含めて困っているという意見もよく耳にする。
・退職を機に島田に戻ってきたが、まちに元気がないと感じている。
・島田市は急激に過疎化が進んでいると感じる。学校の統廃合を耳にすると危機感を感じる。
・田舎でもまちなかでもすべての人が夢を描けるマスタープランをつくっていきたい。
・駅前、商店街、市役所周辺は、人がいなくて寂しい。
・島田市は自然が豊かで、大井川鐵道や川根温泉がにぎわっているので、もっと利活用を考える必要がある。
・人口は減少していくが、市民と他地域の人が島田市に訪れてもらえるような島田らしさのアピールと認知度を高めていければと思う。
・島田市は、若い世代からの知名度がとても低く、大学の友人らに聞くと、島田市を訪れたことがあるという人がほとんどいない。
・車を持たない世代ということもあり、島田市の印象が駅前になってしまうことが問題だと感じている。
・川根や伊久身などの豊かな自然を活かして、都会にはないような魅力をアピールできればよいと思う。
・住みやすくするためには、中心市街地の便利さを考えることも大切だが、島田ならではの山間地の魅力を知ってもらうことも大切だと思う。
・島田市は、道が空いていて人が少なく、子どもの頃は寂しいまちだと思っていたが、今となってはこれほど住みやすいまちはないのではと感じている。
・東京では、どこにいても車が多く、子どもにとって危ないと感じるため、島田はすごく快適に過ごせている。
・幸福度というのは、年代や立場によって人それぞれだと思うが、この市民会議を通して、より市民幸福度が高い島田市をつくっていきたい。
・島田に住んでいると当たり前だと思うが、大井川や蓬莱橋、茶畑などは他県の人に自慢できる島田の魅力であり、交通インフラは整っているため、住みやすいまちだと思う。この点を十分に活かしてまちづくりをしていきたい。
・地元を想う気持ちがないと人は根付かないと思う。
・生活を豊かにする上では、ハード面やソフト面で整備をする必要があるが、地元愛を育むことを意識しながら、計画づくりを考えていきたい。

【アドバイザー会議委員】
・色々な都市の良い所や悪い所を島田と比較しながら考えるとよりよいアイデアが出ると思う。
・吉田町と焼津市は、大井川を境に分けられているため、大井川の片側しか持っていない。その点、島田市は大井川の両岸を持っており、大井川を上手に活かすことが一つの鍵だと思う。

・10 年後、20 年後にはまちの姿はどんどん変わる。
・次の世代に繋げるためには、将来を幅広く想像し、時間の流れを考えながら、今のまちをどのようにしたらよいかを考えられたらよいと思う。
・島田は東海道新幹線、新東名及び東名高速道路などの骨格となる都市の交通軸が整備されている。
・幸福度、熱意も重要だがそれだけで生活できる時代ではないことを認識していく必要がある。
・30～40 年続くまちにしていくためには、稼げるまちにしていく必要があるため、その辺りを計画に盛り込めたらと思う。
・今は変化の時代であり、これまでの計画ではなく、「使う」ための計画にしていく必要がある。
・選択と集中ですべきことを明確にしていくことがこれからの時代には必要であると考える。
・静岡空港の開業により、島田市には海外からの訪日客が今後多くなると考えられる。その際に、訪日客の目的地となり得るかが大きいと思う。それらを踏まえ、今回の計画では景観の視点を盛り込んでいく必要があるのではないかと考える。
・島田の魅力をどのように伝えるかといった、情報発信の仕方を考えていく必要がある。
・島田市は、長い間、市民参加をベースにして取り組んできた行政の姿勢がとても立派だと思う。
・このマスタープランを策定することによって、何かひとつでもまちが変わる、もしくは変わるきっかけとなるような計画づくりをしていただきたいと思う。

以上

第２回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

◆日　時：平成 30 年 8 月 6 日（月）19：00～21：00
◆場　所：島田市役所会議棟大会議室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	欠席
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	副会長
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部　協働推進課	
	北川 未奈子	行政経営部　人事課	
	安達 佑美	教育部　社会教育課	
	杉浦 元紀	支所　川根地域総合課	

■20 年後の島田市の将来像について各グループで話し合いを行いました。
委員の皆様から出た主な意見は以下のとおり。

	要　旨
Aグループ	・ファミリー世代が自然豊かな土地で、家族で自然や家庭菜園を楽しむために、サテライトオフィスやシェアオフィスなどで、自然を楽しみながら会社の人間関係に捉われず、自分の時間を有効に使って仕事をする。 ・全市民、観光客が蓬莱橋中心、大井川沿いで、水が豊かに流れていて、集まりやすく、行きたくなる素敵な飲食店も多い場所なので、大きな川の流れに感動、癒され、歴史を感じながら、ゆっくり時間を過ごす。 ・高齢者など福祉ニーズのある人が、島田市で、高齢化率の増加などによって福祉的なニーズが高まり、医療に関心が集まるため、予防医学の充実、予防的な福祉の充実、訪問サービスの充実、地域全体で支えるサービスの充実を行い、医療施設が少なく、高齢者や福祉的ニーズのある人が活躍できるまち。 ・若者から高齢者が、会社または家などの場所を問わず、稼ぐために、情報や技術を活用し、効率的に働く。 ・島田市に住む人、働く人、外から訪れる人にとって、住みやすく健康な生活を送るために、快適で健康的に仕事をするために、情報化社会が激進する世の中で癒しを求める人たちのために、心を満たすため、健康、医療費削減のため、豊かな自然を大切にする。

	要　旨
Bグループ	・地域住民（市民）のコミュニティが（となりまちの自治会）既存の町内の枠でなく、テーマごとにオンラインで繋がっている（ネットワーク型コミュニティ）コミュニティになっている。（オフラインのつながりが薄れているから） ⇒これによってオフラインの繋がりも強化される。 ・20 年後の平日昼間、育児休暇中の父親が仕事中の代わりに子育てのためパパ友たちと一緒に、茶畑に囲まれた近所の公園で子ども達とめいっぱい遊んでいる。 ・高齢者が自宅で（自宅にいて）病院に行くことができなくても、（行かなくても）診てもらうことができる。（ネット利用など） ・山間地域でその土地を生かし、自給自足する若者が、心の充実とお金だけに頼らない生活を求めて暮らす人たちが増えている。 ・市民が快適に暮らせるため、景観産業の確立を図りながら、地域ごとの特性を活かした景観が形成されている。 ・新たな移動手段（自動運転・ドローン・飛行機）によって、誰もが時間や場所に縛られず（発車時間・駅・バス停・飲酒しても）行きたいところへ行ける。

	要　旨
Cループ	・20 年後、観光客が島田市で、刺激を求めて体験できる。 ・働く人が島田市で高収入を求めて、地元の優良企業に勤め、（お金のかからない）子育てをして豊かに生活している。 ・子育て世代が島田市に住み続けるために働く場所（企業）を誘致する。グローバル化。 ・島田市で高齢者が生きがいを持って生活するために、税金が安く楽しめる場所が充実しているまち。 ・高齢者が生きがいをもち、健康的に生活するために働く場所や集い場を設ける。 ・島田市でファミリー層の人が増加してもらうために、子育て費用が少なくて住むまち。 ・島田市に住む子どもや学生が（良い印象）将来ここで住み続けたいと思うように、商業施設、自然、遊び場を設ける。 ・20 年後の島田市では、学生を流出させないために大学を誘致し、教育の充実を図るとともに、市外の若者を取り込む。

第３回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

◆日　時：平成 30 年 9 月 5 日（水）18：45～21：00
◆場　所：島田市役所会議棟大会議室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

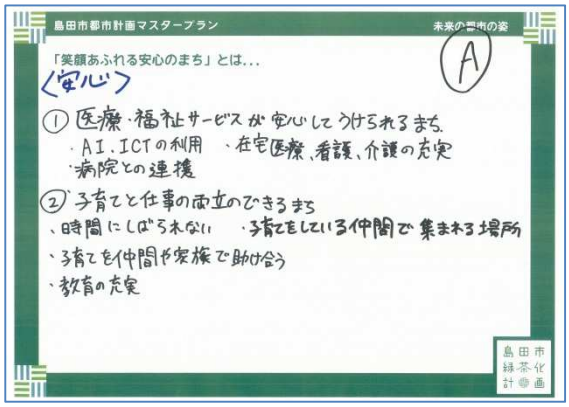
区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	副会長
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部　協働推進課	
	北川 未奈子	行政経営部　人事課	
	安達 佑美	教育部　社会教育課	
	杉浦 元紀	支所　川根地域総合課	

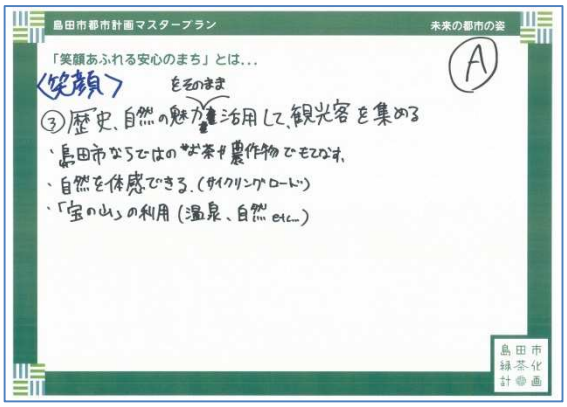
■未来の都市の姿について

「笑顔あふれる安心のまち」をテーマにワークショップを開催しました。

各グループの意見は以下のとおり。

	「笑顔あふれる安心のまち」とは...
Aグループ	【医療・福祉サービスが安心してうけられるまち】 【子育てと仕事の両立のできるまち】 【歴史、自然の魅力をそのまま活用して、観光客を集める】





【Aグループ】

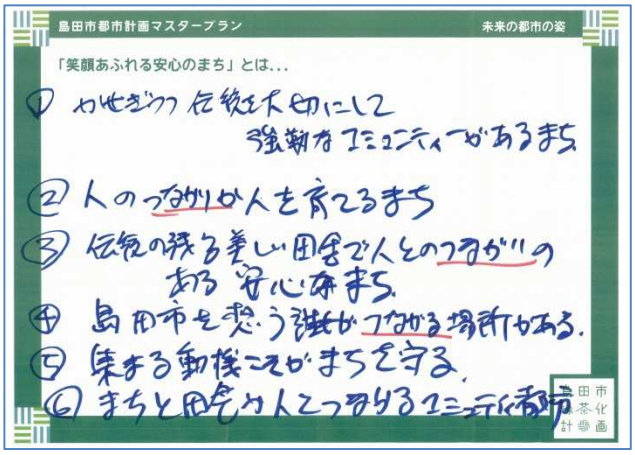
Aグループは、「笑顔あふれる安心のまち」ということで、3つの視点から考えました。安心という視点では、一つ目に「医療・福祉サービスが安心して受けられるまち」という視点。AIやICTの利用や在宅看護、住宅介護の充実など。施設で暮らすのではなく、自分の住み慣れた自宅や地域で暮らしていけるように、在宅で受けられるサービスを充実させることで安心。また、病院と連携することで、より専門的な治療やサービスを受けることができる。

二つ目に、「子育てと仕事の両立ができるまち」という点で考えた。時間に縛られず仕事ができるという視点、在宅で仕事をする人は、子育てと両立できるような仕事が必要。また、子育てしている仲間と集まれる場所や機会をつくることで、子育てを仲間や家族で助け合いながら、地域を巻き込んで行うことも必要だと考えました。

三つ目に教育の充実という視点で考えた。大学の誘致や小中学校で勉強以外にも、人間関係の勉強もできるのではないか。

最後に、笑顔あふれるまちというところで、歴史や自然の魅力をそのまま活用し、観光客を集められるような取り組みができたらいいと考えた。島田市ならではのお茶や農作物で観光客をもてなしたり、自然を体験できるようなサイクリングロードを整備したり、スタンプラリーのように各地を見て回れるルートを整備していくのも良いかと考えました。

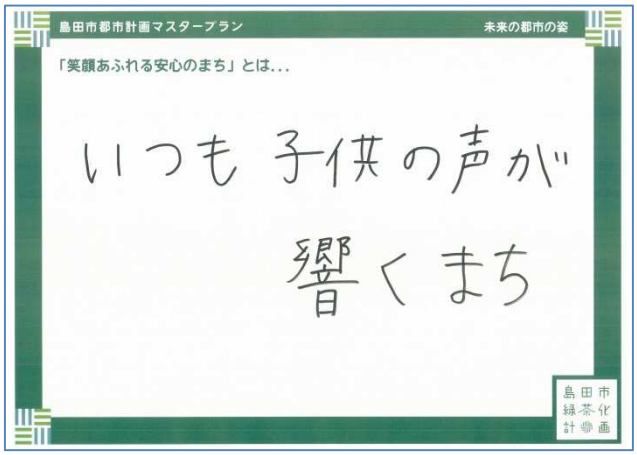
島田市は宝の山だと思う。色々な自然や魅力があるので、大井川地区にある温泉や金谷地区のような自然豊かな場所を開発しすぎるのではなく、そのまま活用して、観光客を集めていけたらと良いと思う。

	「笑顔あふれる安心のまち」とは...
Bグループ	【人のつながりが人を育てるまち】 

【Bグループ】

「笑顔あふれる安心のまち」というフレーズから連想するものは、「まち」です。まちをつくっているのは人である。キャッチフレーズの一番根本にあるのは「人」、「人こそまち」、「人を育てるまち」というのが一番重要だと思った。そのため、「人の繋がりが人を育てるまち」を考えました。

福祉、教育、景観、建物など色々な分野に新しい「安心」「笑顔」が盛り込まれていくと思いますが、それを誘導していくのは人なので、これからはまちをつくる優秀な人材をきちんと教育していくのが重要ではないかと思います。

	「笑顔あふれる安心のまち」とは...
Cグループ	【いつも子供の声が響くまち】 

【Cグループ】

「島田市の未来　笑顔あふれる安心のまち」を一言で表すと、まずターゲットはファミリー世代。結局何をするにも人口が保たないと市として今後成り立っていかないのではないかと考えました。具体的な例として、フリーのネット環境の整備や魅力的な企業の誘致など色々と上がりましたが、様々な意見をまとめ「いつも子どもの声が響くまち」というテーマに決めました。

＜島田市の“未来マップ”について＞

島田市の将来像をイメージしながら未来マップを作成しました。

	「未来マップ」
Aグループ	

【Ａグループ】

医療ネットワークづくりと観光ネットワークづくりの２点で考えました。

まず、医療ネットワークづくりについて、初倉地区や金谷地区、川根地区にそれぞれ小さな診療所などの拠点をつくり、今ある市民病院とネットワークを形成してはどうかと考えました。在宅医療で言えば、近くの診療所で診察した場合、市民病院と情報の共有ができれば、個人の診療所でも詳細なデータを把握することができ、次の対処に繋ぐことができるため、わざわざ市民病院まで足を運ばなくても効率的に出来るのではないかと考えました。

次に観光ネットワークについて、未来マップに自転車で周遊できるようなルートを描いてみました。島田には既に蓬莱橋や茶畑などがあることに加え、今後アウトレットやマルシェなど色々な施設はできることから、その辺りを周遊できるように意識しました。市街地周辺は非常に景色の良い初心者向けのコースになるかと思います。北部地域は中・上級コースで山道自体が非常に人気で現在も外国人が多く訪れています。そういったルートをつくり、今ある自然が非常に魅力的だと思いますので、やりすぎない程度に整備を行うことも必要だと思います。また、現在市内には、民泊ができる場所がありますが、古民家などを利用し増やすことができれば、面白くなりそうな拠点や可能性がまだありますので、そういったことができればと考えました。

	「未来マップ」
Bグループ	

【Ｂグループ】

Ｂグループは、「稼ぐ」という視点で、空港や新東名周辺、これからできるアウトレットなどを活用し積極的に稼ぐことを意識しました。

人の繋がりが人を育てるまちということを意識し、現在にぎわっているエリアは、これからコンパクトにしていかなければいけないエリアになると思います。マップのポイントは、大井川の支流ごとに色々な文化がある場所を示しています。こういった場所に立派な施設をつくりたいという訳ではありませんが、人が集まりやすいのではないかと思い、ネイチャースクールなど、色々な人が繋がるような場所ができればと考えました。

ネイチャースクールでどのようなことを学ぶのかは、大井川を軸とした自然環境や防災のことです。災害の時にどのように市民同士が助け合うかなどを学ぶということで、拠点として山の家を使ってみてはどうかと考えました。

	「未来マップ」
Cグループ	観光特区 子どもに優しい特区 FREE WI-FI エリア ゴールデンバレー地区 にぎわい拠点 高田をつなぐ道 災害に強い住みたいエリア

【Ｃグループ】

大井川鐵道を観光で目一杯活用しようということで考えてみました。川根地区には温泉もあるので、例えばトーマスでまちをつくったり、ＳＬを使って昔の景観を彷彿させるような大正村や明治村をつくったりなどしてはどうかと考えました。また、温泉がある地区には温泉特区を指定するなどして、大井川鐵道沿線を利活用できればと思います。

牧之原台地に安心のまちづくりということです。仮に大井川が氾濫しても高台であることから水害にはならないと思います。そのため、ここに新たにまちをつくるのもいいのではないかと考えました。

島田金谷インター周辺には、「ゴールデンバレー」と名前を付けて、大手企業ではなく、地元の優良中小企業を集中させることが良いのではないかと考えました。大手企業は業績が振るわなければ、すぐに撤退してしまうため、地元の中小企業を呼び込むことが肝心だと思います。

伊久美については、山間部ですが、豊かな自然があり、子育てには重要な要素と考え、子育て世代をここに呼び込んではどうかと考えました。また、島田の中心街はおしゃれな街にしたいので、駅前や本通りなどに若者が集まるカフェなどをつくってはどうかと考えました。

働く場所が少ないですが、あくまで観光を多くして空港周辺に宿泊施設を整備することや、現在は観光名所などが点で広がっていますが、これを面で繋げていくことも重要だと考えました。島田市に来たら一日中遊べて、空港周辺で宿泊や買い物をしてもらい、最後は静岡空港で帰るというような一つの流れができるまちにしてはどうかと考えました。

第４回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

◆日　時：平成 30 年 10 月 25 日（木）18：45～20：50
◆場　所：島田市役所会議棟　2 階会議室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	※欠席
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	副会長
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	※欠席
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部　協働推進課	
	北川 未奈子	行政経営部　人事課	
	安達 佑美	教育部　社会教育課	
	杉浦 元紀	支所　川根地域総合課	

（事務局）：島田市都市基盤部都市政策課４名
（事務局補助）：㈱オオバ名古屋支店
（傍聴者）：１名

◆会議次第
１．開会
２．会長あいさつ
３．議題
（１）全体構想について
・都市づくりの視点について
・都市の現況・特性の調査分析について
・市民等意識調査結果について
・都市づくりの課題の整理について
・都市の将来像について
４．その他
５．閉会

◆配布資料
・全体構想資料
・アンケート結果概要
・アドバイザーヒアリング結果

■議事要旨

項　目	意見概要（⇒は事務局回答）
第１章 都市づくりの視点 について	・７つの視点を５つの視点に絞った理由は何か。変える理由があれば、次のまちづくりに反映させるきっかけになると思う。 ⇒計画全体の流れが通るように、項目を集約して分かりやすくしたものであり、何かの視点を削除したわけではない。
第２章 都市の現況・特性の調査分析について	・公園緑地の供用率 20%は県下 23 位、大井川の河川敷公園等を含めたものか。 ⇒河川緑地も含めています。都市計画決定されている面積は大きいが、供用率は低いのが現状です。 ・島田市の「強み」「弱み」がまとめられているが、変化という視点で平均的な印象がある。島田市として特筆すべきところがあるか。 ⇒レーダーチャートで他都市との比較がある。そこから読み取れるところはあるが、注意が必要。 ・財政力指数が他都市より低いのは、市民税が少ないということか。 ⇒財政力指数は公共サービスに対する一般財源で賄える自治体の体力を示したものです。 ・レーダーチャートに関しては、アドバイザーからの否定的な意見もあり、どう判断してよいのか分からない。「強み」「弱み」の部分も、具体的な“固有名詞”などに置き換えていく方が今後の議論としては分かりやすくなるのでは。公園の供用率が低くても「大井川マラソン」などのように活用されていれば「強み」の要素になるのではないか。 ・島田市は小学校の耐震化に早くから取り組み、耐震化率など県下で No.1 であったこと。そんなことも評価できるといい。 ⇒客観的なデータに基づき、現状を理解してもらい、島田市の立ち位置を見てもらおうというもの。これまで「自然がいっぱい」と定性的に表現されていたこと、「大井川マラソンで活用されている」ということなど、多くの市民に納得してもらえるように、客観的な数値で示せたらよいと思う。
第３章 市民等意識調査結果 について	・前回のマスタープランのアンケートと同じ質問があれば、その結果と比較してみれば何か変化がつかめるのではないか。 ⇒前回のアンケートは一部の地域しか行っておらず、また、質問も前回と違うため、比較できない。
第４章 都市づくりの課題の 整理について	・どういう施策を進めるにもお金がなければ進まない。財政力を強化する項目が何もないのはどうか。 ⇒働く場の創出や産業のブランド化など、財政力に結びつくことを課題として整理している。 ・一番大きな課題は、財政力が減っていくこと。それをどう立て直すかが一番重要なテーマだと思う。見える化すべきである。 ・観光、商業、工業の活性化をすることで、財政が豊かになるので、今の記述のままでも良いのでは。 ⇒財政力、体力を高めていくという狙いをもっと分かるように考えたみたい。資料を作成する経過の中では“稼ぐまち”という意見もあった。 ・“稼ぐ”の方がいい。もう後が無いという危機感をどこかで持たない

	といけない。人口が減ることは明らかなのだから。 ・人口が減少するのは、あくまでも将来予測なので、それを変えるようなことをこの会議で考えるのではないか。 ⇒人口が減少することは避けられない事実として捉えてほしい。 ・「居住」とか「住む」ということは、以前とはずいぶん様子が変わっている。１住居に１家族が当り前では無く、住居が施設化している。従来のやり方で、まちづくりや都市計画を進めて良いのか疑問。前提となっている“まちの状況”が反映されていないのに、今までのやり方でよいのか。 ⇒今回は今までのやり方ではなく、市民会議で「ありたい姿」という視点で議論を進めてきた。本来は、現況の課題から導き出される「目指すべき姿」のモデルを考えていくところを、平行して「ありたい姿」を盛り込んでいる。「住む」ということは“にぎわい”の元になり、活力にもつながっていくので、その視点は大変重要なこと。この後の「都市の将来像」の具体的な施策として、今後の市民会議で検討していきたい。人口が減っても高齢化率が高くなっても、まちがにぎわって楽しめる活力あるまちをつくっていきたい。 ・将来的には藤枝市や焼津市とも絡めたまちづくりが必要だと思うが、現段階で藤枝市や焼津市との連携はあるのか。新しい市民病院など、医療などでも連携を考えているのか。 ⇒様々な分野ごとでの交流、連携などはある。広域幹線道路などは県の土木事務所が中心になって連携して進めている。医療についても、2次医療圏として役割分担をしながらやっていこうとしているが、現実のところは、お互いの機能を補完しあっている範囲。 ・財政難のことも含めて、藤枝市、焼津市と連携して、費用分担をし、この地域全体の人口が増えればよいのでは。 ⇒広い視野で捉えることは大切で、どの市も賛成だと思う。ただ、自分の所が一番になりたいという思いもあり、文化施設なども他所を借りれば良いとはなりにくく、難しいところもある。人口が減少し、財政力が落ちていく中では、どうやって今の暮らしを維持していくかという視点で、広域の中で分担していくという考え方は重要。
第５章 都市の将来像 について	・市民アンケートの「今後の居住環境」で「住み続けたい」という意見が 69%ある。それが、都市構造図にどのように反映されてくるのか。 ⇒「コンパクトなまち」と言っても、住む場所を１箇所に集約するわけでもなく、今の場所に住み続けることは可能。まちの機能を維持していくために、拠点の所に都市機能を集約していきたい。 ・人口が減っていく集落は、全部消滅していくという考え方に聞こえる。「住み続けたい」という理由は聞いていないか。 ⇒「移りたい」人の理由は聞いているが、「住み続けたい」人の理由は聞いていない。回答者の居住地区と年齢は分かるので、クロス集計して分析をする。 ・都市構造図のスケール、精度はこれでよいか。森林・農地ゾーンにも住むところや拠点があり、一つのレイヤーでは表現できない複数の情報が必要ではないか。 ⇒細かな部分については、来年の「地域別構想」の中で作っていきたい。

	今回は「全体構想」なので、このスケールとなるが、より分かりやすいように「イラストマップ」（今回資料で下書き提示）を、作成していきたい。 ・非常にたくさんのデータなので、時間をかけて課題の整理表とかを読んでいきたい。 ・この中では、市民会議でも議論があった“最先端の技術”のことが取り入れられていない。そうした発想に立っていない。このプランでは、集落が全部消滅してしまいそうな気がして心配である。 ⇒コンパクトシティの考え方の中では、まちが持続していくため、都市機能を拠点に集約して維持させることで、周辺の集落が維持していけることになると思う。 ・今のロジックは、中心市街地も中山間地も同じと考えてよいか。 ⇒求められている役割は違うと思う。コンパクトシティで有名な富山市では、中心市街地が元気だからこそ、周囲の集落が保てると言っている。都市の財政力は、結局は税金なので、その税金を生む活力になる所が中心市街地であり、その周りの集落と市全体が維持できるようになるので、中心市街地の役割は大きいと考えています。 ・中心市街地に拠点が幾つかあって、そこに投資していくイメージか。 ・同じ教育が受けられ、同じ医療が受けられる、同じ価値観を得られることが都市機能と考えると、離れた所でも、今の情報通信技術で実現できれば、都市機能とは何かという気がする。 ⇒情報技術が発達する都市をスマートシティと言う。コンパクトシティで都市機能などを物理的に集約することより、スマートシティと言われる技術の革新の方が速く進むと思う。ただし、市民会議で「ありたい姿」でも言われていた技術革新は、いつどうなるかを示すことが難しく、どのように計画に反映させるかは難しいところ。 ・人口が減っていく中でも、「住み続けたい」人が 7 割ぐらいいるということなので、市外から流入とか、人口を増やすことを考え、活力あるまちとか、自然に憧れてきてくれる人とか、子育てしやすいまちだからとか、いろいろな理由で PR して、人口減少に歯止めがかかれば良いと思う。 ・人がそこに住みたくなくなる理由の一番は人間関係だと思う。でも、この会議は、まちを作って、島田市でやっていきたい、住み続けたいという市をどうやって作るかという目的をしっかりとした方が、議論が進みやすいと思う。 ⇒都市計画マスタープランは、都市計画の分野でのマスタープランであるため、主には土地利用について考えていくことになる。もちろんコミュニティとか住みやすさとかは視野に入れていくことになる。その基となる都市の基盤はどうあったらいいのかが中心となると思う。

以　上

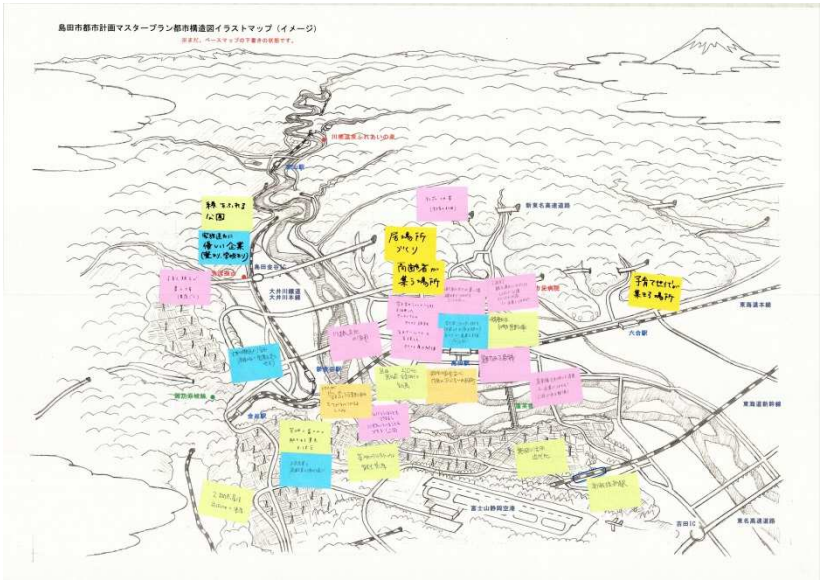
第５回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

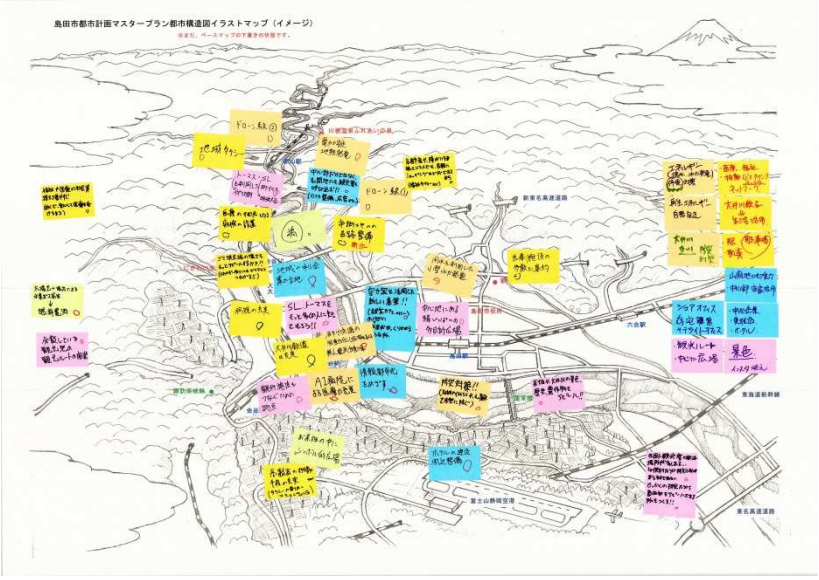
◆日　時：平成 30 年 11 月 26 日（水）18：45～21：00
◆場　所：島田市役所会議棟大会議室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

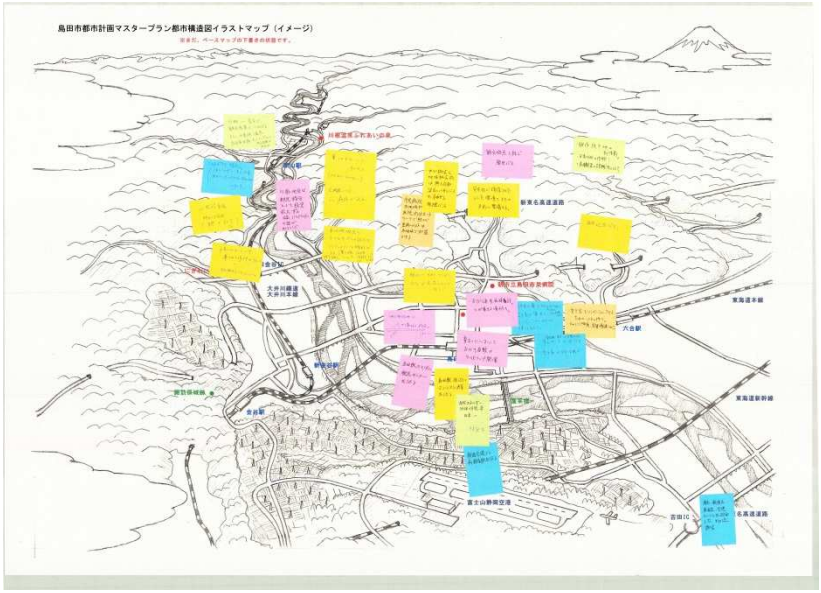
区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	欠席
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	副会長
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部　協働推進課	
	北川 未奈子	行政経営部　人事課	
	安達 佑美	教育部　社会教育課	
	杉浦 元紀	支所　川根地域総合課	

■第５回まちづくり市民会議　議事要旨

＜島田市の“将来像のイメージ”について＞

	Ａグループ
イラストマップ	
グループ発表	＜発表概要＞ ・先日大阪へ旅行に行った際に、日本一長い商店街を訪れた。それぞれの店舗に特色があり、非常ににぎわっていた。島田市には、ユニクロやＧＵなどのファストファッションの小売店がないため、それを逆手に取って、空き家やシャッター街を活用し、アーティストのアトリエを誘致するなどすることで特色を出してはどうか。 ・全国的にクラフト展が人気あることから、アーティストを誘致し、定期的にクラフト展を開催すれば、中心市街地もにぎわって特色が出せるのではないか。 ・駅前を緑あふれる空間に整備し「緑茶化計画」にかけて「緑地化計画」などを進めて、居場所づくりに取り組んでみたらどうか。１人で過ごしたい時などは、公園で読書やゆっくり過ごせる空間があると良いと思う。 ・今の駅前には、みんなで立ち寄る場や集える場がない。そのため、飲食店やイートインスペース、にぎわった商店街、親子連れが集まる公園、友達同士で集える空間など、開放的でにぎわいのある空間が整備されれば、駅前のにぎわいにつながるのではないか。 ・新幹線の新駅があれば良いという意見があった。新駅と富士山静岡空港間は自動運転で結ぶなどすれば、利便性の向上につながるのではないかと思う。 ・茶畑を利活用した産業や川越遺跡を活用した観光産業などについても、民間活力を活用しながら、にぎわい創出ができればと考えた。また、将来的な自動車の自動運転を考慮しながら、道路整備を進めるという話も出た。 ・新しいモノやコトを取り入れることは大切だと思うが、今ある資源や環境を違う視点で活用していくことも大切だと思う。

	Ｂグループ
イラストマップ	
グループ発表	＜発表概要＞ ・島田市民病院には様々な診療科があるが、地域毎の病院は個人院であるため専門的なものが多い。そのため、初診は地域で受け、必要に応じて市民病院を受診するといったことができればと思い、患者の医療情報を病院同士が活用できれば、患者も利用しやすくするという点で医療施設の分散と集中ということを考えた。 ・市街地への道路整備については、東西軸は国道や新東名などがあり比較的便利。南北軸は道が狭く通りにくいため整備が必要。 ・高齢者が免許返納することで、交通手段が無くなってしまうことも考えられるため、地域タクシーや高齢者や障がい者が安価で利用できる福祉タクシー、中山間地域から市街地へのタクシーやバスなどの公共交通の充実が図られれば、住みやすいまちになると思う。 ・先日の台風による停電で個人的に非常に不安な思いをした。情報化社会において、停電するとテレビやネットが利用できず、情報が入ってこない状況になる。また、近年ではオール電化の住宅も増えているため、停電すると生活自体が不便になる。そのため、大井川をはじめとした河川を利用した小型の水力発電や温泉の地熱を利用した地熱発電、個人で蓄電池を確保するなどの、自家発電を促して、自ら防災に備えることも重要である。 ・大企業ではなく、地域に留まってくれやすい中小企業を誘致することで、一緒に地域を盛り上げていければと思う。 ・空き家問題については、空き家を活用して、観光客のみでなく市民も利用できるような古民家カフェなども整備できれば良い。また、空港があることを活かし、外国人や観光客が宿泊できる場所を近くに設けるのも良いのではないか。 ・トーマス、大井川、温泉、茶畑など観光資源が分散しているため、それを繋ぐルートやアクセスの整備が必要だと思う。 ・最近はインスタグラムなどにより、情報媒体として写真が持つ影響力が大きいと感じる。茶畑や大井川など島田ならではの魅力を伝える手段として活用出来ないか。 ・初倉地域はホテルやコンビニなどがあり生活するには便利だが、島田らしさを感じるものがないため、島田をアピールする場所や機会を設けることも大切だと思う。 ・大井川を渡る橋が非常に混雑するため、もう一つ橋を架ければという意見も出た。 ・茶畑は他都市にはあまりない島田ならではの景観であるため、来訪者に感動してもらえる。そういった場所に観光拠点を整備すれば良いのではないかと考えた。

	Ｃグループ
イラストマップ	
グループ発表	＜発表概要＞ ・中山間地では、既にパラグライダーやヒルクライム、キャンプ場等があり、外国人観光客を呼び込まなくても訪れている状況でポテンシャルは高い。そのため、この場所を観光特区に指定するなどして集中的に整備してはどうか。 ・自然に囲まれた場所にある川根小学校などでは、自然＋ICT を兼ね備えた特別な学校に位置付け整備し、県外からの受入体制を整えれば、他都市からも人が来るのではないか。 ・川根地域などの中山間地では、高齢者が病院へ行くために公共交通を２回乗り継がなければならず、アクセスが非常に不便な状況にある。そのため、各地域の拠点毎に遠隔で診察してもらえる小さな病院などがあれば非常に良いと思う。将来的には、薬を貰うだけならば、ドローンで受け取れるような時代になっていると思う。また、単なる病院ではなく、コンビニ感覚で利用できるよう、デイサービスやスーパー、保育所などの機能が入っていれば、魅力的で便利な場所になると思う。 ・バスは運行しているが利用者が少ない状況にある。そのため、自動運転で各拠点の病院を結ぶ循環バスがあれば、利用者の需要も見込めるのではないか。 ・中心市街地については、やはり人が集える拠点が欲しい。現状では、島田駅に到着して北口を出たときに島田らしさを感じることができない。そのため、何か島田らしさを感じられるような、観光センターやお茶関係の施設があっても良いのではないかと思う。おびりあについても、児童館や図書館などが併設されているが、もう少し機能を追加したり、機能を見直したりするなどしてはどうかと考えた。新庁舎の市役所では人の集まれる場所になっても面白いのではないかと考えた。 ・島田駅付近にマンションを建設したら、島田に住む人も増えるのではないかという意見も出た。 ・空き店舗や空き家を利活用し、行政が応援しつつ民間で回せる仕組みができれば、自発的ににぎわうのではないか。 ・環境に配慮した住宅ということで、自然エネルギー活用住宅率日本一などを目指すような取組みを進めることも、島田のアピールになると思う。

＜島田市の“都市の将来像”について＞

主な意見
○「コンパクトなまち‘S」の「’S」が呼びにくいため、例えば、「iZOO」などの呼びやすい名前だと良いのかなと思う。 ○「まち」を「シティ」に変えれば、呼びやすくなるのではないか。 ○大井川というキーワードについて、島田市しか使えないということがあったが、大井川町という場所もある。 ○藤枝市や焼津市にも昔から大井川が流れていたが、歴史を紐解くと島田と金谷だけである。藤枝市も焼津市も元々は大井川の中に点在した島が原型となるため、本当の意味で大井川の歴史を語ることができるのは、島田と金谷と家山と初倉だけである。そういった意味でも大井川というキーワードは良いと思う。 ○大井川自体は他都市とも繋がっているため、島田市だけではなく他都市とつなぐという意味でも良いと思う。

【都市の将来像】

（仮）大井川でつなぐ　コンパクトなまち’S

～コンパクト+ネットワークの都市づくり～

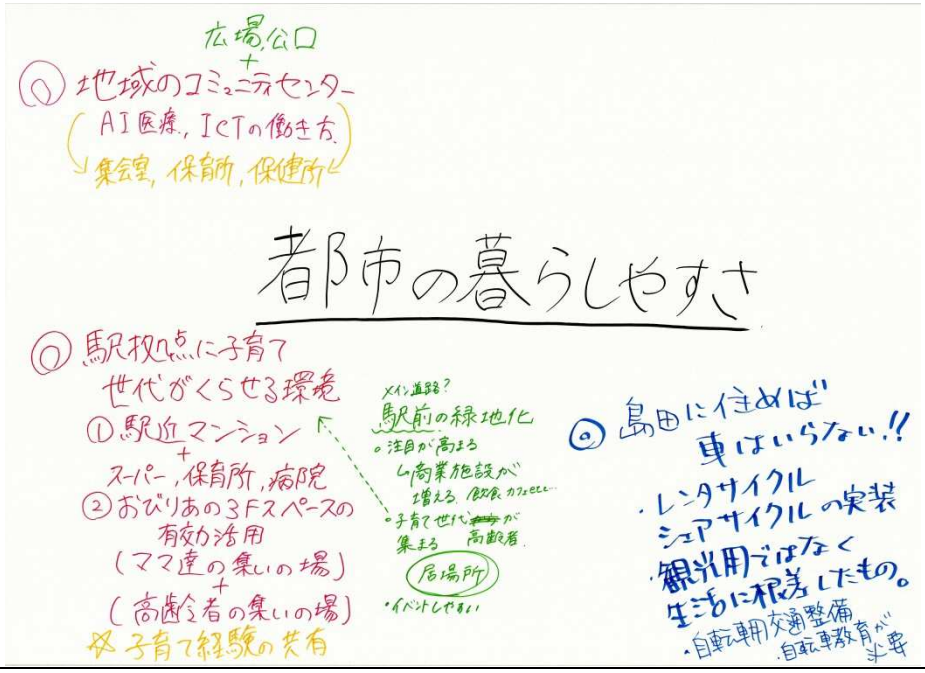
第６回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

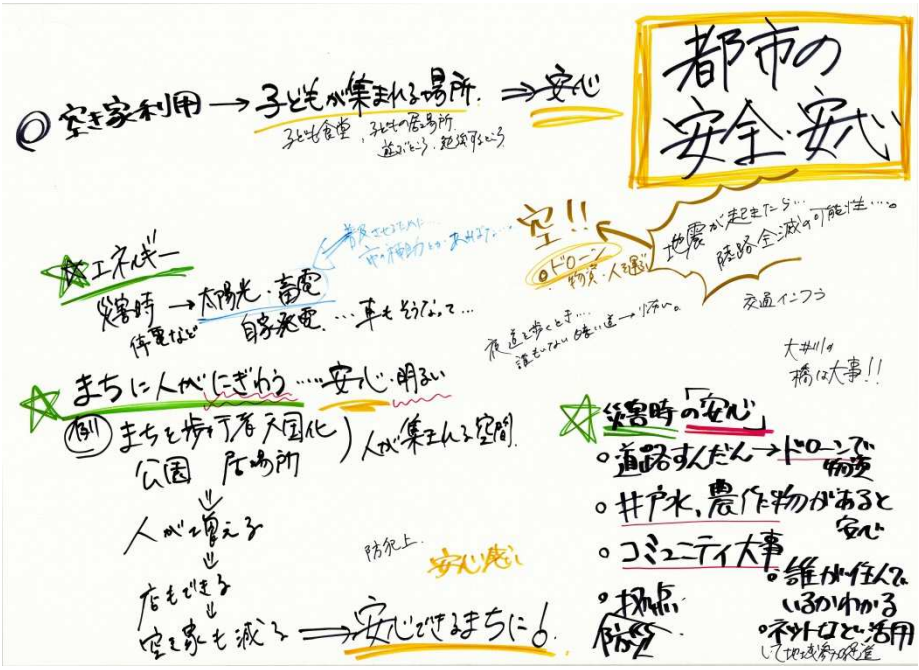
◆日　時：平成 30 年 12 月 20 日（木）18：45～21：00
◆場　所：島田市役所会議棟大会議室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

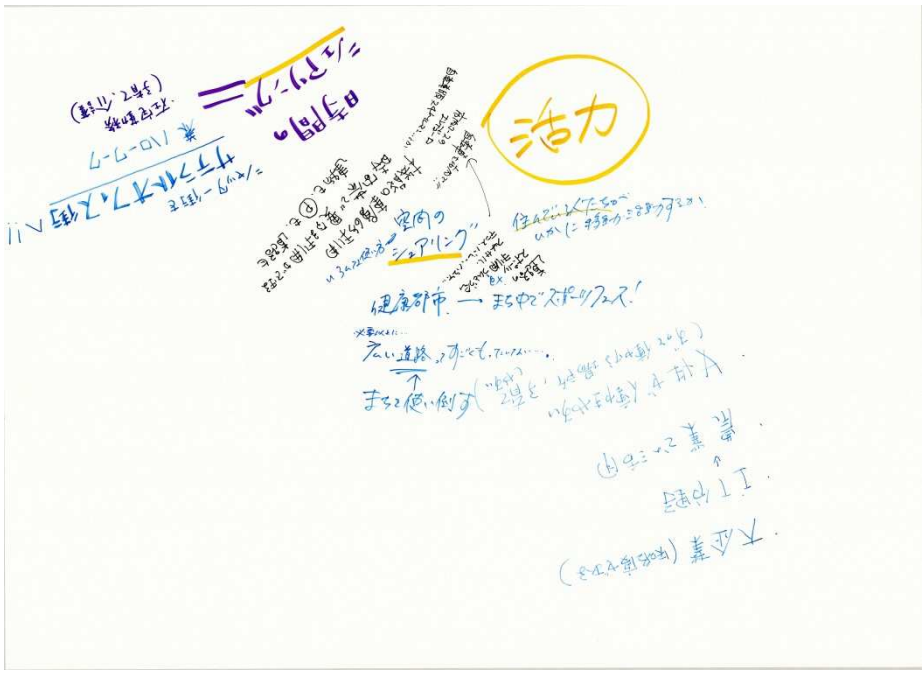
区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	欠席
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部　協働推進課	欠席
	北川 未奈子	行政経営部　人事課	
	安達 佑美	教育部　社会教育課	欠席
	杉浦 元紀	支所　川根地域総合課	

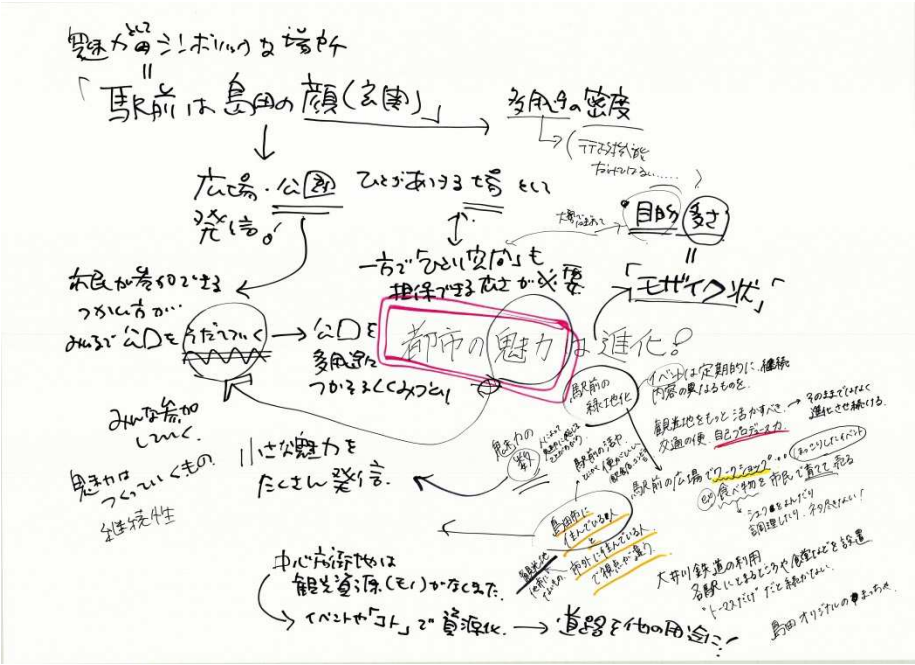
■第６回まちづくり市民会議　議事要旨

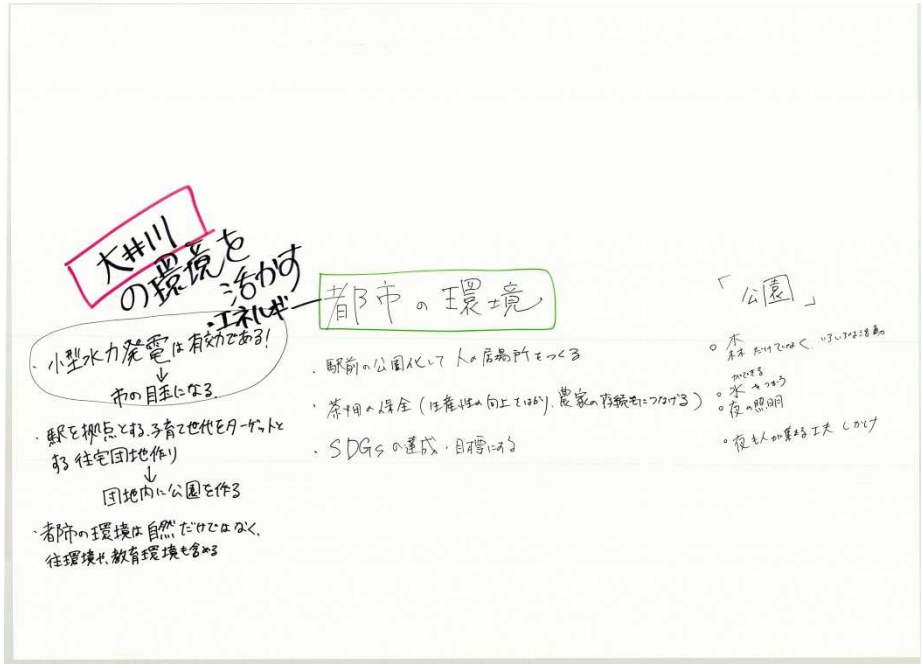
＜５つの「テーマ別方針」について＞

	都市の暮らしやすさ
グループ意見のまとめ	
グループ発表	＜発表概要＞ ・子育てしやすい環境づくりをテーマに中心市街地と中山間地の２つの場合で意見交換を行った。まず、中心市街地では、駅に近接した場所にマンションを整備し、そのマンションと併設する形でスーパーや病院、保育所などを集積させれば、子育てしやすい環境になるのではないかという意見が出た。また、既存の施設を有効活用として、おびりあの３階スペースを子育て世代や高齢者の集いの場とすることで、子育てに関する知識と経験を共有する場としてはどうかという意見があった。 ・中山間地においては、子ども達が遊べる広場に、子育て世代が働ける場所や保育所、保健所などの機能が入った地域のコミュニティセンターの様な場所があれば、暮らしやすさに繋がるのではないかという意見が出た。このコミュニティセンターでは、最先端の技術（ＡＩやＩＣＴなど）を活用した医療や働き方ができれば一層良いと思う。 ・これまでのアンケート結果では、車がないと生活が不便という意見が出ていた。公共交通といっても実際にはバスを利用する人が少ないのではないかと議論し、中心市街地を対象にレンタサイクルやシェアサイクルを社会実験的に実装してみたらどうかという意見が出た。他都市では観光客を対象にしたレンタサイクルなどが既にあるかと思うが、このまちに暮らす人たちのための、地域の生活に根付いたレンタサイクルは、まだ事例が少ないのではないかと思う。レンタサイクルなどは、建物を整備するよりもコスト面でも実現性があり、他のまちにない島田の特色としてＰＲできるのではないかと考えた。 ・一方で、まずは建物をつくるよりも、人が集まる居場所づくりが大切ではないかという意見が出ており、駅前を公園のように整備すれば、子育て世代や高齢者世代の居場所にもなるのではないか。そのため、まずは、子育て世代をはじめとした人が集まる仕組みづくりを行い、その上で集まった人たちが暮らしやすい仕組みづくりがあれば良いという結論になった。

	都市の安全安心
イラストマップ	
グループ発表	＜発表概要＞ ・都市の安全というテーマで、「災害時の問題」、「災害時のコミュニティ」、「エネルギー」をポイントに意見交換を行った。 ・災害時において、一番問題となるのはやはり陸路ではないかという意見が出た。道路や橋が全て使えなくなった場合、島田市が陸の孤島になってしまうのではないかと考えたとき、ドローンを活用し物資を運んだりする技術があれば安全安心につながるのではないかと考えた。また、橋が崩壊することを防ぐために、新しい橋を架けるよりも、今ある橋を災害時でも使えるように強化していくことが大切だと考えた。 ・コミュニティに関しては、周りに誰が住んでいるかということが大切であり、災害時に閉じ込められてしまった時、まずは自力で脱出しようと試みると思うが、周りに住んでいる人たちとの共助が大切になってくると思う。市役所や自衛隊が出来ることには限界があると思う。周りに誰が住んでいるか把握することや声掛け見回りなどが災害時の安心という点で大切になってくると考えた。 ・エネルギーに関しては、停電等したときに、太陽光発電などは自宅で出来る発電として考えられるが、コスト面などを考えていくと補助金を受けるのが難しい部分もあり、最近では売電価格も下がっている傾向にある。そのため、太陽光で発電してそれを売るというよりも、蓄電を普及させるための補助金を導入するなど、自家発電を促すことが大切だと思う。 ・最後にまちに人がにぎわうことで安心や明るい印象に繋がると思う。具体例として、まちなかを歩行者天国するなどの案が出た。また、公園や居場所づくりが直接的に安全安心につながるかはわからないが、まち中に居場所づくり、活力づくりを行うことや空き家を利用して店舗を誘致したりすれば、まちが明るくなり、まちの安心につながると思う。空き家を利用する方法としては、子ども食堂や学童保育などの子どもが集まる場所としてはどうかという案が出た。ボランティアやバイトを雇って勉強を教えたり、親が迎えに来るまでの時間を面倒見てもらえる場所を、空き家を活用して作れば、安心につながるのではないかと思う。

	都市の活力
イラストマップ	
グループ発表	＜発表概要＞ ・島田市に今あるものを活用していくという視点で言えば、本通りなどの大きな道路を活用し、健康に過ごすという視点を含め、まち中で何か仕掛けられたらという意見が出た。このテーマで話を進めていく中で、空間のシェアや時間のシェアなど、昼間活用されていても夜は活用されていない、その逆の夜は活用されているけれど、昼は活用されていないというような、空いている時間を上手く活用すれば、今あるもので活力を創出することができるのではないかという意見が出た。 ・シャッター街をサテライトオフィス街にするという意見も出た。色々な企業が集まることでハローワーク的な機能も盛り込めれば良いし、在宅勤務も可能になるのではないかと思う。 ・前回の市民会議で、誘致するならば中小企業が良いという意見も出ていたが、中小企業を誘致することでメリットも当然あるが、大企業でも良いのではないかと思う。大企業が来てくれれば、それに伴って関連会社も付いてくる。分野としてはどこでも働ける IT 分野が良いのではという意見も出ており、その他には女性が継続して働きやすい企業が来てくれればよいと思う。

	都市の魅力
意見交換の結果	
グループ発表	＜発表概要＞ ・都市の魅力と一言で言っても、島田に住んでいる人にとっての魅力と、島田を訪れる人の魅力の２種類あるのではないかと整理した。大きく分けて、住んでいる人にとっての魅力というのは、どちらかというと住みやすさや、生活しやすさとかなど、安全や安心が魅力になってくるのではないかと思う。外から訪れる人にとってみたら、自分の住んでいるまちにはないものが、島田にあるということが魅力として認識されるのではないかと思う。 ・例えば、蓬莱橋や川越遺跡などの観光資源や川根の風景や茶畑などのランドスケープが他のまちにはない島田の魅力として認識されると思う。 ・一方、島田の住民にとってみると、生活しやすさという視点の他に、魅力としてシンボリックな場所があって欲しい。それは一番分かりやすく言えば、以前からある駅前が島田の顔で玄関となっているが、その玄関が何もない状況なので、そこに目的の受け皿を用意できるような場所が欲しいという意見が出た。建物を建てたりするよりも、駅前の広場や公園などの、人が集まることができる場所づくりというのが駅前には相応しいのではないかと思う。 ・人が集まる場というのは賑やかなイメージがあるが、住民にとってみると、一人の時間を担保できるようなスペースが欲しいという意見が出た。 ・公園を例に挙げると、市民が参加できる使い方ができると、単発的な魅力ではなく、みんなで公園を育てていくみたいな、公園を多用途に使える仕組みづくりがここでは必要ではないかということを、島田の駅前でできればよいと思う。 ・都市の魅力はモザイク状というように描かれているが、中心市街地の状況を見ると、各店舗はすごく頑張っているし、とてもきらきら光る魅力だと思う。それらをまとめて、こんなに素敵な魅力があるということをプロモーションしていくような、魅力の発信の仕方を、行政的な計画は必要だとも思うが、そうではない、地域に眠っているような小さな魅力をプレゼンテーションしていくことも必要ではないかと思う。

	都市の環境
イラストマップ	
グループ発表	＜発表概要＞ ・環境とは何かについて意見交換をした結果、自然環境や教育環境、防犯の環境など色々な環境があり、一言で「環境」といっても難しいという話になった。 ・島田市の目立った環境とは何があるかを考えたときに、公園や自然というワードが出てきたが、田舎はみんな自然が多いため、島田独自の環境とは言えないのではないかと思う。 ・例えば、昔の人はどこに住んでいるか聞かれたときに、「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」の大井川と答えれば、誰にでも伝わったが、今の 20 代の人たちはきっとわからないと思う。やはり島田市にとっての環境の大目玉はやはり大井川である。全てが大井川の環境をどう活かすかが島田のまちにとっての環境ではないかと考える。 ・島田には大井川があり、市内には無数の用水路が流れている。この用水路を活用した小型水力発電所をつくり、島田としての目玉にしてみてはどうか、といった意見があった。

第７回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

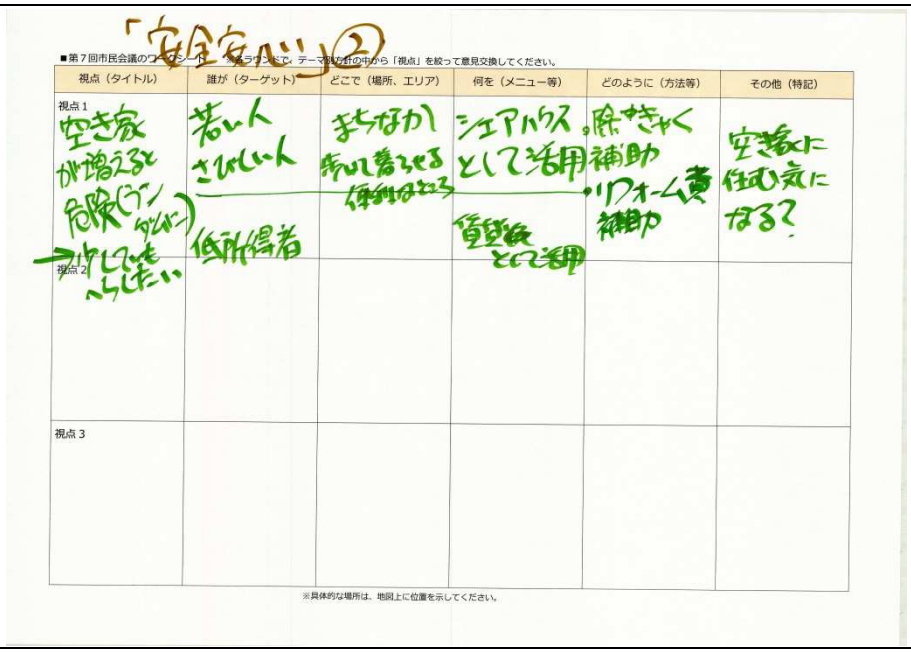
◆日　時：平成 31 年 1 月 22 日（火）18：45～21：00
◆場　所：おおるり 3 階視聴覚室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

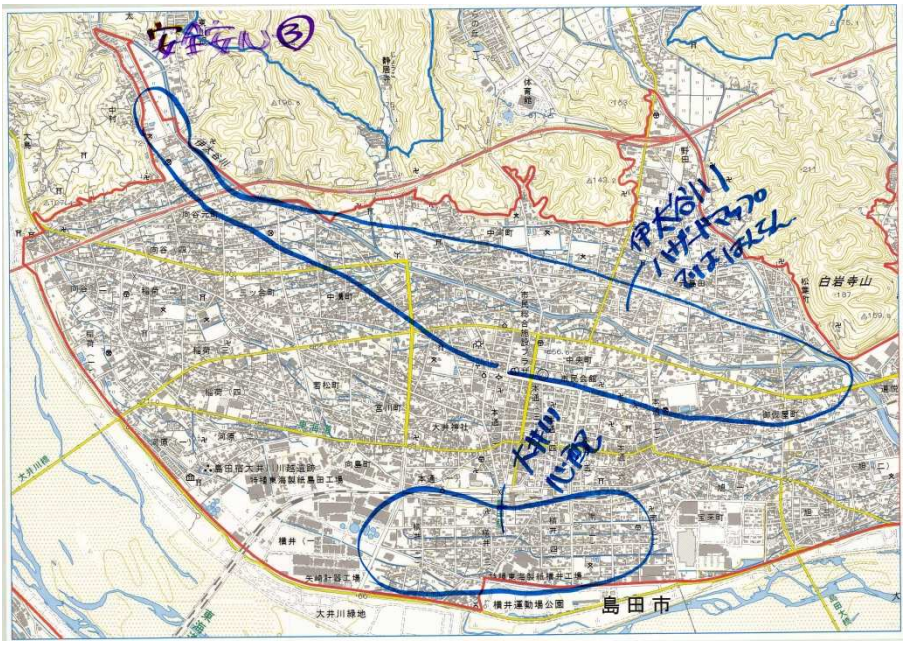
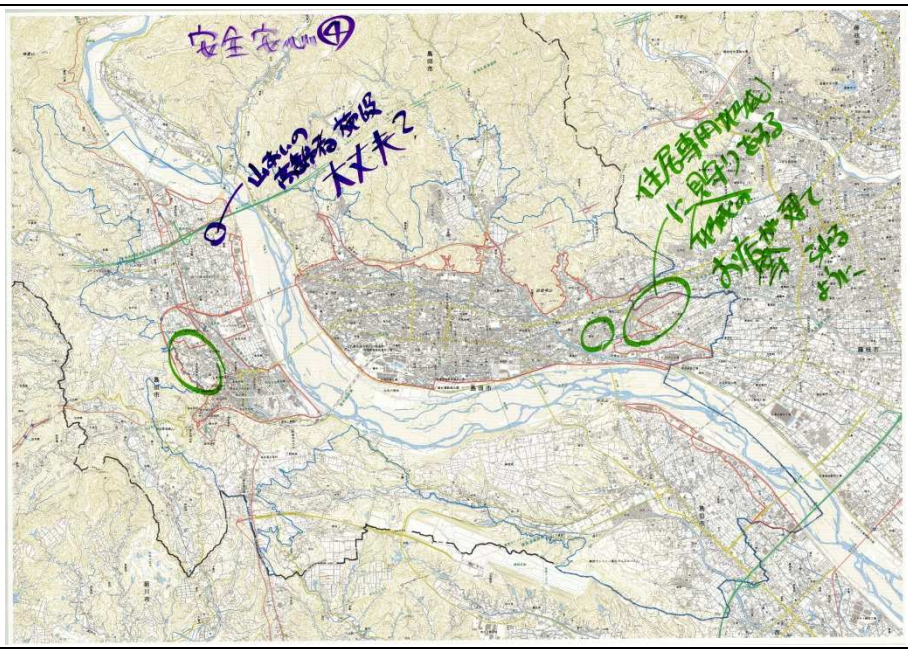
区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	欠席
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	
	太田 拓男	島田市自治会連合会	欠席
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部　協働推進課	
	北川 未奈子	行政経営部　人事課	
	安達 佑美	教育部　社会教育課	
	杉浦 元紀	支所　川根地域総合課	欠席

■第７回まちづくり市民会議　議事要旨

＜５つの「テーマ別方針」について＞

	都市の暮らしやすさ
意見交換の結果	
グループ発表	＜発表概要＞ ・「多様なコミュニティを育む拠点整備」の視点では、市民や小学生、シルバー世代が集えるコミュニティセンターを整備することで、情報の収集・発信の拠点にできれば良いという意見が出た。具体的には、島田駅から市役所前までの空き家等をリノベーションし、子供食堂やシルバー世代の居場所づくりを考えた。子供食堂では、シルバー世代に運営等を任せることで活力の創出にも繋がると思う。シルバー世代の居場所としては、独居老人になると人と関わる機会が無くなってしまうため、喫茶店などを自主的に運営してもらい、情報収集・発信の場として活用してもらうことで、趣味のサークルなど多様なニーズに対応した、人と人とのマッチングができればと思う。 ・「都市機能」の視点では、商業機能や福祉機能など、様々な機能がある中で医療に特化して意見交換を行った。ターゲットとしては市民全体だが、特に中山間地などの中心市街地から遠くに住む人、交通弱者、高齢者などを対象に、家庭で医療が受けられるような取り組みが出来ればよいという意見が出た。具体的には、ICT を活用して自宅等で医療が受けられる訪問医療が推進されれば良いと考えた。また、今後島田市に医師を増やしていくためには、どうすればよいか考えた時に、奨学金制度などにより行政が支援・補助することで市民病院などに医師を多く呼び込み、ある程度の医師の数が確保できたら、最終的にはコミュニティセンターなどの地域の拠点に分院を整備し、そこを拠点に医療が受けられるようになれば良いと考えた。さらに予防医療などの考え方が広まってきたため、公民館などの地域の拠点で食育やセミナー、ヨガ、体操などの講座や教室を開講し、病気にかからないための予防を施策として取り組む必要があるのではないかという意見も出た。 ・「多様なコミュニティ」の視点では、最近は子どもを外で自由に遊ばせることがなくなってきているため、子育て世代が安心して子供を遊ばせられるように人気の公園などには防犯カメラを多く設置してはどうかという意見が出た。防犯カメラが多く設置されていれば、子供が少し遠くに行ってしまっても、保護者も安心するし、防犯カメラの画像をスマホ等で見られれば、なお良いと思った。また、島田市には防犯カメラがたくさんあることを周知することで、犯罪抑制にも繋がり、市のＰＲにもなると思う。それが子育てしやすいという魅力になり、都市の暮らしやすさに繋がると思う。

	都市の安全安心
意見交換の結果（1）	
意見交換の結果（2）	

	都市の安全安心
意見交換の結果（３）	
意見交換の結果（４）	

	都市の安全安心
グループ発表	＜発表概要＞ ・「防災意識を高める取り組み」の視点では、これまで大きな災害がなかったため、市民の防災に対する意識が低いという状況を踏まえ、若い世代から高齢者までの多様な世代に対して、特に大井川沿いの地域において、色々な手段で情報が得られる仕組みを整備することが良いのではないかという意見が出た。若い人には新聞やテレビ、ラジオなどの媒体よりも、スマホで見られるツイッターなどのＳＮＳ、防災メールなどを活用した方が普段から防災意識が高まり、有事の際にも有効に活用できるのではないかと考えた。一方、高齢者はＳＮＳよりもテレビや新聞などの紙媒体の活用がメインになるが、何か一つに絞るのではなく、色々な手段で情報が得られるようにすることが大切だと思う。 ・（委員談）私は島田市現地避難地班として、震度４以上の地震が発生した場合に、避難所となる小学校にて対応する担当をしている。先日、島田第五小学校で実施した避難訓練では、参加した方々と一緒に避難所運営ゲームというものを行った。これは各グループに避難所に来た方の様子や避難所で必要な対応などが書かれたカードが配られ、その内容に対して、どのように対応すればよいか考えてもらうゲームになっている。市民の方々と実際に必要な対応について共有することで、防災意識が高まる良い機会になった。ぜひこのような取組みを自治体規模で実践すれば、市民全体の防災意識の向上に繋がると思う。また、防災訓練は参加者の都合上、休日に行うことが大半であるが、平日に行っても良いのではという意見も出ている。 ・「地域の見守り強化」の視点では、昼間のまち中に人がいなくなるという状況があることから、住宅しか建てられないような住居専用地域には規制を緩和して店舗や塾などを立地できるようにすることで、平日でもまちに人がいて見守りできるようにすることが大切ではないかという意見が出た。 ・「エネルギーの地産地消」の視点では、災害時にはエネルギーが不足するといったリスクを分散させるため、太陽光を含めた取り組みが出来れば良いという意見が出た。 ・「空き家対策」の視点では、年々増加する空き家をどうするか考えた時に、シェアハウスとして活用したり、貸し出したりするなど出来れば良いという意見が出た。また、空き家をリフォームして住みたい人がいるか、建て直したい人がいるかなどの状況を把握することも重要であり、実際に建て直すにしても建てる人が費用を負担しなければならないため、建て替えやリフォームなどの需要に対する補助があれば良いのではないかという意見が出た。もし、シェアハウスということであれば、まちなかならば若い人や単身者が利用する可能性もあり、賃貸としての利活用を想定するならば、低所得者が借りやすくなれば、少しは空き家も減るのではないかという意見も出ている。

	都市の活力
意見交換の結果	
グループ発表	＜発表概要＞ ・「企業誘致」の視点では、大井川流域に水を使う企業を誘致したらどうかと意見が出た。企業誘致にあたっては、企業訪問等で大井川のＰＲだけではなく、島田の住みやすさなども合わせてＰＲすることで、水を扱う食品会社や製薬会社などに来てもらえればよいのではないかと考えた。 ・「産業の付加価値化・競争力の向上」の視点では、都市の活力を向上させるためには、若者の数を増やすことが重要であるため、ターゲットを若者に絞り、中心市街地の空き家や空き店舗、空きスペースに加え、低・未利用地などに養成学校を整備したらどうかという意見が出た。この養成学校では、島田でしか学ぶことができないスキルを養成出来れば良いと考え、近い将来様々な仕事がロボット化、ＡＩ化されることを見越して、ロボットの操縦・運転などの特別なスキルを島田で教えることができれば、興味を持つ若者が集まってくるのではないかと考えた。 ・「起業支援・雇用創出」の視点では、企業を誘致して働く人を増やすことも大切だが、島田にいながら東京などの大都市でも仕事ができる環境をつくることも大切だという意見が出ている。既に ICT を活用したテレワークやクラウドソーシングでの仕事に取り組んでいる方も実際にいるため、ターゲットとしては、働き方を自分で選択したい人、起業したい人、今は東京で仕事をしているが、家庭の都合など色々な事情を持つため、島田市内で仕事をしたい人を対象に、空き家や空き店舗などをリノベーションし、ネット環境が整ったシェアオフィスやワーキングスペース、サテライトオフィスを整備してはどうかと考えた。具体的には、小学生や中高生向けのプログラミング教室などをサテライトオフィスなどで体験したり、色々な職種に対して、どのようなスキルがあればどんな仕事ができるのかを体験できる場として活用するのはどうかと考えた。そのためにはセキュリティがしっかりしたネット環境を整備する必要があるが、以前とは違いセキュリティが強化された Wi-fi 環境を整備することができるようになっている。また、単にサテライトオフィスのような空間を整備するだけではなく、インターネットを利用した仕事のノウハウを教えてくれる指導者を呼んで教えてもらうことができれば良いと考えた。実際にそのような場所があれば、指導者のみならず、オフィスを管理する仕事や人と仕事を繋ぐコーディネーターの仕事も出てくる為、雇用の創出にも繋がると思う。

	都市の魅力
意見交換の結果	
グループ発表（1）	＜発表概要＞ ・「にぎわい広場」の視点では、島田駅前が寂しい空間となっており、人が交流し、滞留する場所がないため、子育て世代や若い世代が繋がるように、駅前にシンボリックな公園が出来ればよいという意見が出た。具体的には、駅前の三角公園とその隣の大きな駐車場を合わせた場所に広場を整備し、常にイベントが開催されて賑わっていたり、待合せとして使ってもらえたりすると良いと考えた。にぎわいの広がりを考えた時には、駅前の公園とおび通りの間で少しずつでも空間を増やしていくことが大切だと思う。今の駅前は良い場所に限って駐車場となっているため、駐車場は端に寄せれば、もっと中身の濃い駅前空間となると思う。また、カラフルな建物を建てれば、駅前の見栄えも良くなるという意見も出ており、魅力向上には色々な方向性があるかと思うが、最終的にはお金をかけてでも、専門家に依頼してプロデュースしてもらうのが良いと思う。 ・「空き店舗の利活用」の視点では、若者やアーティスト、何かを発信したい人、高校生や大学生に向けて、シャッター通りになっている商店街や裏通りの空き店舗などで、島田にしかない個性的な店やカフェなどの出会える場所、団体の活動拠点、24 時間利用できる貸しスペースなどがあればよいという意見が出た。それらを実現するためには、物件のオーナーとの交渉が必要になるが、案としては、月間売上の５％を支払うなどの成果報酬の一部を支払うことができれば、借りる側のハードルも下がるのではないかと思う。また、島田には大学はないが、市外にある大学のフィールドワークの場としてレンタルスペースの利用を促すことで、大学がない島田でも学生が賑わうのではないかという意見も出た。これまでにない新しい取組みを進めることが必要ではないかと思う。 ・「市役所周辺」の視点では、現在検討が進んでいる庁舎について、掛川市役所のような庁舎が良いのではないかという意見が出た。 ・「インバウンド」の視点では、蓬莱橋や川越遺跡などの価値の高い資源があるが、１日遊べるわけではなく、観光資源の貴重さをＰＲ出来てないため工夫が必要である。インバウンド向けとしては、駅前に外国人を対象としたホテルを整備したり、川越エリアなどの観光地には宿泊施設を整備してはどうかという意見が出た。さらに、宿泊施設だけではなく、観光エリアに体験型アクティビティを設けることで、外国人に日本の文化に触れてもらう機会をつくるのも重要だと思う。

	都市の魅力
グループ発表（2）	＜発表概要＞ ・蓬莱橋や川越遺跡周辺には、観光資源そのものしかなく、まわりに活気がない。せっかく自然を活かした観光資源を持っているため、地元を体感できるレストランや商業施設などがあれば、よりにぎわうと思う。また、距離がある観光地を一日楽しむ方法として、まずは観光地同士を繋がなくてはいけないため、レンタサイクルなどを利用して、観光地めぐりをするようなルートを提案・発信する必要があるのではないかという意見が出た。情報発信のツールとしては、インバウンドを踏まえた、インスタグラムやYoutubeなどのウェブ媒体を利用しながら、島田の魅力を発信できれば良いと考えた。

都市の環境

意見交換の結果（1）

■第７回市民会議のワークシート　※各ラウンドで、テーマ別方針の中から「視点」を絞って意見交換してください。

環境①

視点（タイトル）	誰が（ターゲット）	どこで（場所、エリア）	何を（メニュー等）	どのように（方法等）	その他（特記）
視点1 歴史と文化の景観	観光客 ＋ 島田の若者（子ども）	川本通り ＋ 川越金谷 東海道	街道文化を発信する ↓ 今ある文化祭の推持・継続	民間の力 補助	20年後には島田市内全てのんが等00
視点2 20年後の次世代 小水力発電の推進	民間企業 ＋ 市（補助）	地図上 市内の用水路 （も伊太谷川 内屋川）	小水力発電の整備	20年後の技術が民間が実施 ＋ 市の補助	常時水有り ＋ 電源確保 ＋ 駐車場所
視点3					

※具体的な場所は、地図上に位置を示してください。

意見交換の結果（2）

■第７回市民会議のワークシート　※各ラウンドで、テーマ別方針の中から「視点」を絞って意見交換してください。

環境②

視点（タイトル）	誰が（ターゲット）	どこで（場所、エリア）	何を（メニュー等）	どのように（方法等）	その他（特記）
視点1 エネルギーインフラ AD減少 市の整備→明確化	~~各家庭~~ 住民） 地域住民	各住戸 各町内 地域	エクテン コンポスト 地域講座	整備しやすい しくみサポート	独立型 分散型 インフラ
視点2 緑の維持（景観）	地元＋行政	身近な緑（DX宅）	生活と緑	管理体制（住民協定）	
視点3 ~~大井川の~~ ~~水辺の維持~~	時間帯ごとのターゲット AM 子育て世代 PM 観光客		働く人がランチする お弁当の店	民間のカを借りる	

※具体的な場所は、地図上に位置を示してください。

	都市の環境
意見交換の結果（３）	
グループ発表	＜発表概要＞ ・「歴史と文化の景観」の視点で、今の若者は大井川や東海道の歴史を知らない人も多いため、この歴史を若い世代だけではなく広く伝えるためにも、島田の若者や観光客に向けて、大井川や本通り、川越遺跡、金谷などの東海道にゆかりのある場所で街道文化を発信する拠点を整備し、島田の歴史と文化の景観を伝えることが大切という意見が出た。また、市内にはおび祭りなどの昔からの祭や文化があるため、これらを維持・継続することも大切である。具体的な整備については、観光客を対象にするという点から民間企業の力を取り入れるなどできれば良いと考えた。おび祭りは今は１丁目から７丁目までの住民だけの祭という印象だが、20 年後には全市民が参加できると良いと思う。 ・「小水力発電の推進」の視点では、災害時には避難所の近くに発電できる施設があることが重要であるため、既に伊太谷川を活用して発電している小水力発電を他の箇所でも出来るようにすればよいのではないかという意見が出た。具体的な場所としては、伊太谷川で２箇所、問屋川で１箇所整備できそうな箇所があり、いづれも常時水が流れているため、発電が可能であり、避難所となる小学校も近くにあるため、整備する価値はあると思う。既存の発電所は国が整備したものだが、技術革新が進めば民間企業も参入できると思うため、民間と行政が協力して推進できれば良いと考えた。 ・「独立型エネルギー・インフラ」の視点では、人口減少に伴う財源の縮小により、行政がエネルギー確保やインフラ整備を行うには限界があると思うため、地域住民自身が、各地域や各住戸において、蓄電設備やコンポスト設備、浄化槽などを設置することができれば、独立したエネルギー、インフラとなるため、災害時でも利用できるようになるのではないかという意見が出た。整備方法としては、行政が設置しやすいような仕組みづくりやサポートを行い、地域がそれらを活用しながら進めていければよいと思う。 ・「緑の景観の維持」の視点では、大井川神社などの古くから伝わる神社の緑、大きな屋敷の緑など、市民に身近な緑が今でも多く残っているため、これらの緑を保全してはどうかという意見が出た。保全するためには行政と地元が協力しながら、守りたい緑を登録制にして管理するなどして、互いにサポートしながら進めることが大切だと思う。 ・「公園」の視点では、子育て世代だけではなく、働く人も気軽に利用できる公園があれば良いという意見が出た。場所としては、島田駅から市役所までの間の駅前通り沿いで地元企業の力を活用しながら、公園整備ができれば良いと考えた。

第８回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

◆日　時：平成 31 年 3 月 25 日（月）18：45～20：30
◆場　所：市役所 4 階第三委員会室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	欠席
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	欠席
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二郎	地域生活部　協働推進課	
	北川 未奈子	行政経営部　人事課	
	安達 佑美	教育部　社会教育課	
	杉浦 元紀	支所　川根地域総合課	

◆会議次第
１．開会
２．会長あいさつ
３．議題
（１）全体構想（案）について
（２）今後のスケジュールについて
４．その他
５．閉会

◆配布資料
・全体構想案
・まちづくり市民会議における検討事項
・地域別ワークショップスケジュール

■議事要旨

項　目	意見概要（⇒は事務局回答）
第５章 都市の将来像	・「都市づくりの基本理念」から「都市の将来像」の流れが、市民にとっては分かりにくいという感想。基本理念の文章は、島田市だけでなく、多くの都市に共通する考え方であり、都市の将来像の説明文に組み込んでもよいのではないか。 ⇒「基本理念」は、今回の都市計画マスタープランの根底となる部分として、「都市づくりの方向性」「都市のありたい姿」から導いたものとして、示しておきたい。
第６章 都市づくりの方針	・市民会議からの意見も踏まえ、きちんと整理していただいている。ただ、10 年前の都市マスとの違いが分からない。都市構造図にしても、各地域拠点の特徴とか、もう一歩、踏み込んだ内容とならないか。 ⇒第６章までは、「全体構想」としてまとめており、次の「第７章　地域別構想」において、地域毎に踏み込んだ内容をまとめる予定。市内の６地域について、地域別ワークショップ等を開催し、次年度にまとめていきたい。 ・2040 年の 20 年後の未来を考えれば、方針の内容に「先端技術」のことをもっと明記しないと､20 年後に社会がどう変わっているかが見えてこない。もっと情報収集をして記載してはどうか。 ⇒今後、日進月歩する「先端技術（テクノロジー）」による問題解決の方法を、都市マスの方針の中で、書き込むことは難しい面がある。ただし、P83「（１）④ICT などを活用した生活の利便性向上」や P84「（３）②ICT を活用した次世代交通システムの導入」など、市として今後、積極的に取り組みたい内容は、できるだけ記述したい。各項目の説明文を記載するなかで、できるだけ表現したい。 ・「全体構想」と「地域別構想」は相互に関連があると思うが、地域別構想の内容によっては、全体構想に影響が出た場合はどうするか。 ⇒「地域別構想」の結果も踏まえ、必要に応じて「全体構想」を見直す場合もある。 ・P 83～のテーマ別方針については、頁数も多いことから、市民にとっては分かりにくい。A3 版で図式化するなどして、一目でわかるようにできないか。 ⇒市民向けには【概要版】を作成する予定であり、市民により分かりやすいように工夫したい。 ・P 81 に（仮称）鎌塚橋の記述があるが、どう位置づけられているか。 ⇒現在の都市マスにも位置づけられており、その内容を継承している。 ・テーマ別方針については、市民会議のワークショップの際にも、その境界の曖昧さが指摘されていたが、同じ項目が何度も記載されるなど、分かりにくい部分がある。もう少し何とかならないか。 ⇒“まちづくり”の施策においては、どうしても多面性があり、分かりにくい所であるが、「都市計画マスタープラン」は、方針を定めるものであるため、未来マップなどのイラストで工夫するとともに、より具体的な内容については、別計画（立地適正化計画）の中で検討していいきたい。

■議事要旨

項　目	意見概要（⇒は事務局回答）
第６章 都市づくりの方針	・P 89 に「（１）中心市街地のにぎわい創出」とあるが、“にぎわい”という言葉では、まちの特色が伝わらない。まちの“色”が見えてこないと思う。どんな形で“にぎわい”を創出するのかを具体的に記載できるとよい。 ⇒文章だけで表現するのは限界があるため、“にぎわい”のイメージを具体手なイメージ図等で示すことを考えたい。 ・P 83～のテーマ別方針については、たくさんの項目があるが、全ての内容を一律に実現することも難しいと思う。それぞれの項目については、力を入れてやることは何か“強弱”をつけられないか。 ⇒前回の都市マスでは、重点項目として「景観」などを挙げていた。今後、検討したい。
今後のスケジュール （市民会議の 検討課題について）	・地域によっては、各種団体が活発に活動しており、いろいろなことを検討している。そうしたいう内容が、反映されてこないといけない。地域別ワークショップのメンバーに、商工会や企業などのメンバーが入っているか。 ⇒地域別ワークショップのメンバーは、自治会からの推薦、PTA や保育園等の関係者などとしている。メンバーについては、今後検討したい。また、関係団体にはヒアリング等をして、情報収集に努めたい。 ・「第８章　実現に向けて」とあるが、計画の実現性を考えると、地域の活動と、都市マスの全体構想、地域別構想と乖離してはいけない。どのように、整合性を図るか。 ⇒「都市マス」の基本理念にある方向性から外れると実現化できなくなる。地域に対して、「都市マス」の考え方、方針を説明し理解してもらうとともに、地域での取り組みとの整合性を図ることを進めていく。

以　上

第９回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

◆日　時：令和元年 5 月 22 日（水）18：45～20：30
◆場　所：おおるり１階第一多目的室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	北川 雅之	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	※欠席
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	副会長
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
	大塚 弘子	交通事業者（タクシー協会）	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部　市民協働課	
	安達 佑美	地域生活部　生活安心課	
	北川 未奈子	行政経営部　人事課	

◆会議次第
１．開会
２．都市政策課長あいさつ
３．新委員紹介
４．議題
（１）会長選出
（２）都市計画マスタープラン全体構想（原案）の概要
（３）今年度のスケジュール
５．その他
・将来イメージイラストの作成について
・次回市民会議について
６．閉会

◆配布資料
・資料１　全体構想（原案）概要版
・資料２　2019 年度　まちづくり市民会議スケジュール（案）
・資料３　将来イメージイラストの作成について

■議事要旨

項　目	意見概要（⇒は事務局回答）
都市計画マスタープラン全体構想（原案）の概要について	・学校について、今後は教育機能のみならず、より地域の中核的な機能を担うようになると思われる。都市マスにおいても、もっと記載のウエイトを高くしてはどうか。 ⇒学校が今後地域において重要性が高まっていくことは認識している。庁内調整の上、例えば P118 に「教育環境の適正化に関する検討結果に基づき、統廃合を進めます」「地域において求められる拠点としての役割と財政負担とのバランスを十分に配慮して、統廃合した建物の利活用を地域とともに検討します」といった表現で記載している。 ・これまでまちづくり市民会議で話し合ってきたことが原案に反映されている。 ・バスに関する記載が多く、今後公共交通の重要性が高まっていくと感じた。 ・もっと具体例を掲載するなど、イメージがわかるようなものにできるとよい。
今年度のスケジュールについて	（委員了承）
将来イメージイラストの作成について	・イラスト作成を行うことで、都市マスを、より市民に分かりやすいものとしていきたい。 ⇒今後、都市マスに掲載するイメージイラストの作成を行うため、市民会議の有志により別途集まる機会を設け、描く内容やイラスト案に関する検討を行っていきたい。参加希望者は会議終了後に事務局にお声掛け願いたい。

以　上

第 12 回島田市都市計画マスタープラン等
まちづくり市民会議
議　事　要　旨

◆日　時：令和元年 10 月 30 日（水）18：45～20：00
◆場　所：島田市役所会議棟　大会議室
◆出席者：
○まちづくり市民会議委員（１５人）

区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	權田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	欠席
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	北川 雅之	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	欠席
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新間 康博	島田市自治会連合会	副会長
	太田 拓男	島田市自治会連合会	
	大塚 弘子	交通事業者（タクシー協会）	
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学　薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学　社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二朗	地域生活部　市民協働課	
	安達 佑美	地域生活部　生活安心課	
	松下 未奈子	行政経営部　人事課	欠席

◆会議次第
１．開会
２．会長あいさつ
３．議題
　都市計画マスタープラン
　（１）都市計画マスタープラン（案）について
　（２）イメージイラストについて
４．その他
　・次回市民会議について
５．閉会

◆配布資料
・資料１　都市計画マスタープラン（案）
・資料２　将来イメージイラスト（下絵）

■議事要旨

項　目	意見概要（⇒は事務局回答）
都市計画マスタープラン（案）について	・内容が現状から少し変更する程度に感じます。例えば 2030 年、2040 年に実現されるであろうＡＩや映像技術、自動運転の内容が全く盛り込まれていない。イラストにもバスの運転手が描かれていますが、2040 年は本当にそういう時代なのでしょうか。また、医療や教育についての内容もないのですが、どのように取り組もうと考えているのですか。 ⇒全体構想の 86 頁にあるテーマ別方針の中に④ＩＣＴを活用した生活の利便性向上があります。この中に Society5.0 などの考え方も踏まえて新技術の導入を促進することを記載しています。国が進めようとしている Society5.0 や自動運転などの新技術を活用した取り組みは、これから先のまちづくりになります。こうした取り組みを今後展開できるよう計画の中で位置付けることが重要になります。 ・教育や医療といった一番大切な項目が抜けている気がします。また、伊久身地域や川根地域で暮らす人を今後どのようにするのか表現されていない気がします。 ⇒都市計画マスタープランは総合計画ではないため、都市計画法に基づく部分を記載することを前提としています。そのため、教育や医療の分野は個別計画で検討する内容になります。伊久身地域や川根地域については、都市計画区域外の中で特に過疎地域となります。今後人口が減少した際に集落をどのように維持させるのかをメインに検討しています。都市計画マスタープランは主な考え方を記載する計画なので物足りない感じがするかもしれませんが、総合計画でないことを前提に考えていただければと思います。
将来イメージイラストについて	・イメージイラストの中に金谷地域と伊久身地域がありません。この２つの地域について作成してもらえないか。 ⇒金谷地域については、新しい計画のパースが既にあったため、作成していませんでした。残りの２地域については、有志の委員の皆様に相談したうえで、作成を前向きに検討してもらいます。パブリックコメントは文字だけですが、年度末までにはイメージイラストを完成させていきたいと思います。

以　上